

平成22年度
私立学校10年経験者 中学高等学校夏期研修会（東日本）
私立学校10年経験者 小学校 夏期研修会（東日本）
概 要 報 告

平成22年8月3日（火）～5日（木）の2泊3日の宿泊研修を、千葉県千葉市幕張にあるOVTA 海外職業訓練協会研修センターを会場に実施した。今回は中学・高等学校と小学校の二本を同時開催した。

■会 場■ 海外職業訓練協会研修センター（OVTA：オブタ）
■参加者数■ 中学・高等学校 26名（23校） 小学校 7名（7校）

■研修内容・講師■

＜中学・高等学校＞

1. 講 義「新しい学力観と評価のあり方および学校評価」
山路 進（日本私学教育研究所主任研究員） 山崎 吉朗（日本私学教育研究所専任研究員）
2. 講 義「生徒指導の今日的課題 ―情報モラルとケータイ―」
清水 秀樹（日本私学教育研究所生徒指導研究会委員、向上高等学校・自修館中等教育学校前校長）
波多野和彦（江戸川大学メディアコミュニケーション学部教授）
奥野 雅和（京都文教中学・高等学校教諭）
3. 講 義「事例に学ぶ学校危機管理」
堀切 忠和（日本大学法学部准教授・弁護士）
4. 講 義「カウンセリング・マインドと学校教育相談」
川合 正（京北中学・高等学校校長）

＜小 学 校＞

1. 講 義「子どもが生き生きとし、躍動している学級づくり」
斎藤 進（前学習院初等科科長）
2. 講 義「事例に学ぶ学校危機管理」
堀切 忠和（日本大学法学部准教授・弁護士）
3. 講 義「魅力ある私立学校にするための教師のあり方」
大森 隆實（日本私学教育研究所専任研究員）
4. 講 義「特別支援教育を学ぶ」
石橋 恵二（武蔵野東中学校校長）
5. 総合討議



両研修会とも講師と参加者が一体となって、取り組んでいる印象が強く、少人数ならではの良さが充分に引き出された研修会であった。講師への質問なども多数あり、多くのものを吸収しようという参加者の熱心な姿勢が伺えた。

中学・高等学校の情報の取り扱いの講義では、日頃の小さなことに情報漏洩の危険が潜んでいること示しながら、情報漏洩しないための注意点などを掲げ、取り扱いについては日頃の意識を高めることの大切さを学ぶ内容であった。学校危機管理の講義と併せて、ネット犯罪を防ぎ、巻き込まれないようにすることなど、多くの具体的事例を聞くことが出来、有意義な内容のものであった。

小学校の研修会では、新聞などで取り上げられたエピソード的な短文を教材化し、その文章を基に、模擬授業を行う場面があった。教師それぞれの感性の違いで教材化の仕方も違って来るし、授業を受けている子どもたちの受け止め方にも違いがあるという発見があり、興味深いものであった。

また、自閉症児と健常児の混合教育の実践を行っている石橋先生の特別支援教育の講義では、支援を必要としている子どもたちへの対応の具体的実践例などについてお話を伺った。子どもたちが安定した状態で学習できる環境作りや取り組み、障害を持つ子どもや保護者の悩みなど、実際に直面したことがなければ気付くことが難しい事柄なので、学校現場での生の話に強い感銘を受けた。

中学・高等学校、小学校の両研修会ともに参加者からは、どの内容もすぐに役立つものばかりと好評であった。
(文責 平野)